

奄美大島から得られたシロヘリテンジクダイ Jaydia albomarginatus

著者	吉田 朋弘, 萩原 清司, 本村 浩之
雑誌名	Nature of Kagoshima
巻	41
ページ	61-64
URL	http://hdl.handle.net/10232/24403

奄美大島から得られたシロヘリテンジクダイ *Jaydia albomarginatus*吉田朋弘¹・萩原清司²・本村浩之³¹ 〒 890-0065 鹿児島県鹿児島市郡元 1-21-24 鹿児島大学大学院連合農学研究科² 〒 238-0016 神奈川県横須賀市深田台 95 横須賀市自然・人文博物館³ 〒 890-0065 鹿児島県鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

■ はじめに

テンジクダイ科 *Jaydia* 属は背鰭条数が VII-I, 9 であること, 臀鰭条数が II, 8 であること, 前鰓蓋骨後縁は弱い鋸歯状であること, 側線は完全であること, 両顎に大きな犬歯状歯がないこと, 腸に発光器官を有すること, 尾鰭は円形もしくは截形であることなどの特徴をもつ (Gon, 1996; 林, 2004, 2013; Mabuchi et al., 2014). 日本からはシロヘリテンジクダイ *Jaydia albomarginatus* (Smith and Radcliffe, 1912), マトイシモチ *J. carinatus* (Cuvier, 1828), テンジクダイ *J. lineatus* (Temminck and Schlegel, 1843) およびツマグロイシモチ *J. truncata* (Bleeker, 1854) の 4 種が知られる (Gon, 1996; 林, 2013). シロヘリテンジクダイは, これまで国内において, 沖縄県西表島からのみ記録されていた (林, 2004, 2013).

2004 年 10 月 19 日に鹿児島県奄美大島の瀬戸内町阿鉄でシロヘリテンジクダイが 1 個体採集された. 本標本は鹿児島県ならびに奄美群島における本種の標本に基づく初めての記録であるとともに, 分布の北限更新となるため, ここに報告する.

■ 材料と方法

計数・計測方法は Randall et al. (1990) にしたがっ

た. 標準体長は本文中では体長と表記した. 計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm の精度で行い, 計測値は体長に対する百分率で示した. 鰓耙数は左体側の第 1 鰓弓の鰓耙を計数した. ツマグロイシモチの学名は Gon (1996) にしたがった. 本報告に用いた標本は横須賀市自然・人文博物館に保管されている. 本報告中で用いられている研究機関略号は以下の通り: KPM (神奈川県立生命の星・地球博物館); YCM (横須賀市自然・人文博物館); ZUMT (東京大学総合研究博物館).

■ 結果と考察

Jaydia albomarginatus (Smith and Radcliffe, 1912)

シロヘリテンジクダイ (Figs. 1-2)

標本 1 個体: YCM-P 42468, 体長 52.3 mm, 鹿児島県大島郡瀬戸内町阿鉄 (28°11'18"N, 129°17'17"E), タモ網, 水深 15 m, 2004 年 10 月 19 日, 萩原清司.

記載 背鰭条数 VII-I, 9; 臀鰭条数 II, 8; 胸鰭条数 16; 腹鰭条数 I, 5; 側線有孔鱗数 24; 側線上方の横列鱗数 2; 側線下方の横列鱗数 6; 背鰭前方鱗数 5; 尾柄周鱗数 12; 総鰓耙数 4 + 11 = 15; 櫛歯状に発達した鰓耙数 2 + 9 = 11.

体各部測定値の標準体長に対する割合 (%): 体高 36.5; 体幅 16.3; 頭長 42.8; 眼径 11.9; 吻長 9.9; 両眼間隔 (骨質部で測定) 8.8; 上顎長 20.5; 尾柄長 22.4; 尾柄高 17.4; 背鰭前長 43.4; 第 1 背鰭第 1 棘条長 2.3; 第 1 背鰭第 2 棘条長 6.9; 第 1 背鰭第 3 棘条長 14.7; 第 1 背鰭第 4 棘条長 16.3; 第 2 背鰭棘条長 14.0; 第 2 背鰭最長軟条長

Yoshida, T., K. Hagiwara and H. Motomura. 2015. Northernmost record of *Jaydia albomarginatus* (Perciformes: Apogonidae) from Amami-oshima island, Kagoshima, Japan. *Nature of Kagoshima* 41: 61-64.

✉ TY: the United Graduate School of Agricultural Sciences, Kagoshima University, 1-21-24 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: k5299534@kadai.jp).



Fig. 1. Fresh specimen of *Jaydia albomarginatus*. YCM-P 42468, 52.3 mm SL, Atetsu, Amami-oshima island, Kagoshima, southern Japan. Photo by K. Hagiwara.



Fig. 2. Preserved specimen of *Jaydia albomarginatus*. YCM-P 42468, 52.3 mm SL, Atetsu, Amami-oshima island, Kagoshima, southern Japan.

25.6；臀鳍前长 64.6；臀鳍第 1 棘条长 2.5；臀鳍第 2 棘条长 12.8；臀鳍最长软条长 23.9；尾鳍长 27.7；胸鳍长 26.6；腹鳍前长 41.5；腹鳍棘条长 14.3；腹鳍最长软条长 22.6。

体は長楕円形で側扁する。第 1 背鳍起部で体高が最も高い。吻は突出する。口はやや大きく、口裂はわずかに斜位。主上顎骨後縁は瞳孔後端を越える。前鼻孔は短い鼻管を形成し、吻端近くに位置する。後鼻孔は鼻管を形成せず、前鼻孔の斜

め上後方、眼窩付近に位置する。上顎骨歯は微小な円錐歯が不規則に並び歯帯を形成する。下顎前方では 5-7 列の小円錐歯が歯帯を形成する。鋤骨は 1-3 列の円錐歯を有する。口蓋骨には 3 列の小円錐歯がある。前鰓蓋骨後縁は鋸歯状である。第 1 背鳍起部は第 3 側線鱗の直上にある。第 2 背鳍起部は第 9 側線鱗の直上にある。臀鳍起部は第 10 側線鱗の直下にある。胸鳍起部は第 2 側線鱗の直下にあり、その先端は臀鳍起部上を越える。

腹鰭起部は第1側線鱗の直下にあり、その先端は臀鰭基底の始部に達しない。尾鰭は截形で、中央がわずかに湾入する。側線鱗列は完全で、鰓孔上端直上部から尾鰭基部まで連続する。

色彩 生鮮時の色彩 一体全体は暗紫色で、鰓蓋から腹部の体側下方にかけては銀白色を呈する。背鰭および尾鰭は黒みを帯びる。第1背鰭第3棘から第5棘間の鰭膜に黒色素胞が密に分布する。第2背鰭の基底上方に黒色素胞がやや密に分布し、線のようにみえる。胸鰭、腹鰭および臀鰭は透明。腹鰭棘から腹鰭第1軟条、臀鰭第1棘から第2棘は白色を呈する。尾鰭下葉縁辺は白色を呈する。

固定標本の色彩 一体全体は淡黄色。吻端と下顎に黒色素胞がやや密に分布する。背鰭は透明であるが、第1背鰭第1棘の鰭膜基部から第1背鰭第5棘の鰭膜先端にかけて黒色を帯びる。第2背鰭は基底付近の鰭膜に黒色素胞が分布する。胸鰭と臀鰭と腹鰭は透明である。尾鰭は淡黄褐色であるが、下縁は白色を呈する。

分布 本種は日本、海南島、フィリピンのルソン島、セブ島およびルバング島、インドネシアのロンボク島とフロレス島から報告されている(林, 2004, 2013)。国内では、奄美大島(本研究)および西表島(林, 2004, 2013)から記録がある。

備考 *Jaydia* 属はテンジクダイ科テンジクダイ属 *Apogon* の亜属として扱われていた(Gon, 1996)が、近年の研究により属として使用されている(Allen and Erdmann, 2012; Mabuchi et al., 2014)。本研究は Mabuchi et al. (2014) にしたがって本種の属を *Jaydia* として扱った。

奄美大島から得られた本標本は、体側に横帯がないこと、第2背鰭に1黒色斑がないこと、尾鰭は截形でその下縁部は白色であることなどが林(2004, 2013)の報告した *Jaydia albomarginatus* の特徴とよく一致したため、本種と同定された。

林(2004)は西表島から得られた2個体(KPM-NI 5561, ZUMT 58446)に基づき、本種を日本初記録として報告するとともに、標準和名シロヘリテンジクダイを提唱した。その後、本種に関する追加報告はなく、林(2013)は国内の分布を西表

島のみとした。したがって、奄美大島から採集されたシロヘリテンジクダイは、鹿児島県ならびに奄美群島からの本種の標本に基づく初めての記録となると同時に本種の分布の北限記録となる。

生息環境 奄美大島産シロヘリテンジクダイが採集された環境は、シルト質の泥が堆積する内湾である。これは林(2004)が報告した本種の生息環境と似ている。奄美大島産の標本は、オナガウツボ *Evenchelys macrurus* (Bleeker, 1854) によってつくられたと思われる直径約18 cmの巣穴(長さ推定2 mで一方から水を送るともう一方から泥が舞い上がる)から採集された。さらに、同時にツマグロイシモチ1個体が採集された。巣穴の周辺環境にはオナガウツボとオニサルハゼ *Oxyurichthys papuensis* (Valenciennes, 1837) が生息していた。

■ 謝辞

本報告を取りまとめるにあたり、鹿児島大学総合研究博物館ボランティアと同博物館魚類分類学研究室の皆さまには適切な助言を頂いた。標本の採集に際しては、ダイバー民宿おれんちの横山貞夫氏ならびに相模湾海洋生物研究会の皆様にご多大なご協力を頂いた。以上の方々に謹んで感謝の意を表す。本研究は、鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部はJSPS科研費(19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265)、JSPSアジア研究教育拠点事業「東南アジアにおける沿岸海洋学の研究教育ネットワーク構築」、総合地球環境学研究所「東南アジア沿岸域におけるエリアケイパビリティーの向上プロジェクト」、国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」、文部科学省特別経費—地域貢献機能の充実—「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点形成」、および鹿児島大学重点領域研究環境(生物多様性プロジェクト)学長裁量経費「奄美群島における生態系保全研究の推進」の援助を受けた。

■ 引用文献

- Allen, G. R. and Erdmann, M. V. 2012. Reef fishes of the East Indies. Vols. 1-3. xiv + 1294 pp. Tropical Reef Research, Perth.
- Gon, O. 1996. Revision of the cardinalfish subgenus *Jaydia* (Perciformes, Apogonidae, *Apogon*). Transactions of the Royal Society of South Africa, 51: 147-194.
- 林 公義. 2004. 日本（琉球列島）初記録のテンジクダイ科魚類, *Apogon albomarginata*. 横須賀市博物館研究報告（自然）, (51): 46-52.
- 林 公義. 2013. テンジクダイ科. Pp. 826-864, 1979-1986. 中坊徹次（編）. 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- Mabuchi, K., Fraser, T. H., Song, H., Azuma, Y. and Nishida M. 2014. Revision of the systematics of the cardinalfishes (Percomorpha: Apogonidae) based on molecular analyses and comparative reevaluation of morphological characters. Zootaxa, 3846: 151-203.
- Randall, J. E., T. H. Fraser and E. A. Lachner. 1990. On the validity of the Indo-Pacific cardinalfishes *Apogon aureus* (Lacepède) and *A. fleurieu* (Lacepède), with description of a related new species from the Red Sea. Proceedings of the Biological Society of Washington, 103: 39-62.